

外来種（動物）リスト

— 生態系又は人に対する影響度又は緊急度ランクがAのもの —

外来種の定義について

(1)	侵入した時期は、問わない。
(2)	侵入した経緯については、何らかの人の行為によって侵入したものに限る。 また、千葉県以外において人の行為によって侵入した種が、自力で移動してきた場合も含める。
(3)	定着しているかどうか野外での確認が得られていないものについては、注釈をつける。
(4)	品種改良種、遺伝子レベルでの外来種は、注釈をつける。
(5)	海域の範囲は、概ね200海里以内とする。
(6)	リストアップが困難な種として、分類が万全でないダニなどは〇〇類とする。
(7)	対象とする動物群は、原生動物を除く全種とする。

生態系又は人に対する影響度

A	生態系又は人に対し、回復が困難となる深刻な影響が認められる、あるいは予測される。 (※生態系の回復が困難となる深刻な影響は、捕食、競争、交雑等による在来種の絶滅)
B	生態系又は人に対し、深刻な影響が認められる、あるいは予測される。
C	生態系又は人に対し、明らかな影響が認められる、あるいは予測される。
D	生態系又は人に対し、明らかな影響はあまり認められない、あるいは予測されない。
情報不足	現時点では、上記A～Dの影響度ランクを判定する情報が得られていない。

防除の緊急度

A	非常に高い。
B	高い。
C	低い。

リストNo.	分類	和名	学名
1	哺乳類	アカゲザル	<i>Macaca mulatta</i>
2	哺乳類	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>
3	哺乳類	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>
4	哺乳類	キョン	<i>Muntiacus reevesi</i>
5	哺乳類	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>
6	爬虫類	カミツキガメ	<i>Chelydra serpentina</i>
7	爬虫類	ミシシッピアカミミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i>
8	両生類	アフリカツメガエル	<i>Xenopus laevis</i>
9	両生類	ウシガエル	<i>Rana (Aquarana) catesbeiana</i>
10	両生類	トノサマガエル	<i>Rana (Pelophylax) nigromaculata</i>
11	魚類	オオクチバス	<i>Micropterus salmoides</i>
12	魚類	タイリクバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i>
13	魚類	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus</i>
14	昆虫類	セイヨウオオマルハナバチ	<i>Bombus terrestris</i>
15	軟体動物	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>
16	軟体動物	イスパニアマイマイ	<i>Eobania vermiculata</i>
17	軟体動物	カネツケシジミ	<i>Corbicula fluminea form insularis</i>
18	軟体動物	カワヒバリガイ	<i>Limnoperna fortunei</i>
19	軟体動物	ゴマフダマ	<i>Natica tigrina</i>
20	軟体動物	サキグロタマツメタ	<i>Euspira fortunei</i>
21	軟体動物	シジミ属の一種	<i>Corbicula sp. cf. largillierti</i>
22	軟体動物	シナハマグリ	<i>Meretrix petechialis</i>
23	軟体動物	スクミリンゴガイ	<i>Pomacea canaliculata</i>
24	軟体動物	タイワンシジミ	<i>Corbicula fluminea</i>
25	軟体動物	ムラサキガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>
26	線虫類	マツノザイセンチュウ	<i>Bursaphelenchus xylophilus</i>

千葉県の外来種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No. Aランク: 1

分類	哺乳類	
和名	アカゲザル	
学名	<i>Macaca mulatta</i>	
分類群	霊長目オナガザル科	
土着生息地(原産地)	インド、中国、東南アジアなど	
生息情報	日本での分布状況	千葉県
	千葉県での分布状況	館山市、南房総市
	千葉県での生息状況	生息数・分布が増加拡大中。2005年度の調査で、3集団、350～380頭を確認。
移入経路	日本	-
	千葉県	観光施設又はペットの放逐・逸出
移入年代	日本	-
	千葉県	館山市・南房総市のアカゲザルは1956年に初めて生息確認された。移入時期は不明。これとは別に、1970～1980年代に君津市高岩山において外国産マカクの移入・交雑が生じ、交雑個体の除去が行われた。
体重等	体重5～8kg 頭胴長47～64cm 尾長19～30cm	
生息環境	陸域：森林	
生活史	昼行性。メンバーの決まった数10頭～100頭以上の群れで森林内を遊動する。	
繁殖	繁殖場所	森林
	時期	不明
	繁殖形態	1産1子
食性	主に植物の果実や葉	
生態系への影響	ニホンザルとの交雑	
人への被害	農林水産業への被害	農作物被害
	生活被害	現在のところ、なし
	生命身体への被害	現在のところ、なし
生態系又は人に対する影響度	A	
緊急防除度の	緊急度ランク	A
	緊急度の情報	ニホンザルとの間で交雑がすでに確認されており、危機的状況にある。
対策	予防対策	飼育管理の強化・外来種問題の普及啓発
	すでに定着している場合の対策	実態調査・全頭捕獲・食害の技術的防除
文献	全般	なし
	千葉県	房総のサル管理調査会(1999)、萩原・川本(2001)、萩原ほか(2003)、川本ほか(2004)、NPO法人房総の野生生物調査会(2005)
写真・標本の有無(保管先)	剥製標本(千葉県立中央博物館)、写真(相澤敬吾・池田文隆)	
備考		

千葉県の外来種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No. Aランク: 2

	分類	哺乳類
	和名	アライグマ
	学名	<i>Procyon lotor</i>
	分類群	食肉目アライグマ科
	土着生息地(原産地)	北アメリカ
生息情報	日本での分布状況	日本各地
	千葉県での分布状況	夷隅地域、君津市、印西市などで繁殖が確認。県内広くに分布。
	千葉県での生息状況	生息数・分布が増加拡大中。2006年度の調査で、県内の生息数は約1000～7000頭と推定。
移入経路	日本	ペットの放逐・逸出
	千葉県	ペットの放逐・逸出
移入年代	日本	1960年代
	千葉県	1990年代(県内における繁殖の初記録は1996年ころ)
	体重等	体重4～10数kg 頭胴長41～60cm 尾長20～41cm
	生息環境	陸域: 森林、農村地域、住宅地など
	生活史	夜行性。木登りが得意で樹上をよく利用する。水辺を好む。
繁殖	繁殖場所	樹洞、人家の屋根裏など
	時期	主に春
	繁殖形態	3～6頭ほどの子を出産
	食性	雑食性(昆虫類、小型の脊椎動物、果実など)
	生態系への影響	在来生物の捕食、在来の中型雑食獣との競合、フクロウ類の繁殖樹洞の占拠
人への被害	農林水産業への被害	農作物被害
	生活被害	天井裏の糞尿・騒音、飼育魚の捕食
	生命身体への被害	現在のところ、なし(アライグマ回虫の危険性が指摘されている)
	生態系又は人に対する影響度	A
緊防除度の	緊急度ランク	A
	緊急度の情報	北海道や神奈川県状況から今後、農作物被害や生態系への影響が増大するものと予測される。定着初期における早急な対策が望まれる。
対策	予防対策	飼育管理の強化・外来種問題の普及啓発
	すでに定着している場合の対策	実態調査・捕獲駆除・食害の技術的防除
文献	全般	日本生態学会(2002)、鈴木(2005)
	千葉県	落合ほか(2002)
	写真・標本の有無(保管先)	剥製・骨格標本(千葉県立中央博物館)、写真(鎌田貢司郎)、映像(大木淳一)
	備考	尾に数本の黒い縞模様がある。

千葉県の外來種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No. Aランク:3

分類		哺乳類
和名		イノシシ
学名		<i>Sus scrofa</i>
分類群		偶蹄目イノシシ科
土着生息地(原産地)		北アフリカの一部からユーラシア
生息情報	日本での分布状況	在来種として東北以南。国内外来種として日本各地。
	千葉県での分布状況	房総丘陵を中心とした地域。他に下総町、成田市など。
	千葉県での生息状況	生息数・分布が増加拡大中。2001年度の調査で、518km ² に生息と推定。
移入経路	日本	狩猟目的の放逐、飼育個体の逸出。
	千葉県	狩猟目的の放逐。一部に飼育個体の逸出。
移入年代	日本	不明
	千葉県	おそらく1980年代を中心に。
体重等		体重50～150kg 頭胴長120～150cm 尾長14～23cm
生息環境		陸域：森林、農村地域
生活史		夜に行動することが多いが、人間を警戒する必要のない場合には昼行性を示す。単独ないし母系的な小集団で暮らす。
繁殖	繁殖場所	森林
	時期	主に春
	繁殖形態	2～8頭(平均4～5頭)の子を出産
食性		雑食性(植物の根茎や堅果、ミミズなど)
生態系への影響		在来生物の捕食、タカサゴキララマダニの増加
人への被害	農林水産業への被害	農作物・タケノコ被害。水田の畦の掘りおこし。
	生活被害	現在のところ、なし
	生命身体への被害	現在のところ、なし
生態系又は人に対する影響度		A
緊防除度の	緊急度ランク	A
	緊急度の情報	近年、県内における農林作物被害金額が1億円を超えており、総合的な対策が必要である。
対策	予防対策	飼育管理の強化・外来種問題の普及啓発
	すでに定着している場合の対策	実態調査・捕獲駆除・食害の技術的防除・生息地管理
文献	全般	日本生態学会(2002)
	千葉県	千葉県生物学会(1999)、浅田ほか(2001)、房総のシカ調査会(2001、2002)
写真・標本の有無(保管先)		剥製・骨格標本(千葉県立中央博物館)、写真(大木淳一)
備考		国内外来種。イノブタを含む。在来個体群は昭和40年代ごろに絶滅した可能性が高いが、その遺伝子が一部残存している可能性も否定できない。

千葉県の外來種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No.	Aランク: 4	
	分類	哺乳類
	和名	キョン
	学名	<i>Muntiacus reevesi</i>
	分類群	偶蹄目シカ科
	土着生息地(原産地)	中国南東部、台湾
生息分布情報	日本での分布状況	千葉県、東京都伊豆大島
	千葉県での分布状況	房総丘陵を中心とした地域(9市町)
	千葉県での生息状況	生息数・分布が増加拡大中。2006年度の調査で、570km ² に約1400-5400頭が生息していると推定。
移入経路	日本	観光施設からの逸出
	千葉県	観光施設からの逸出
移入年代	日本	1937-1980年代の間
	千葉県	1960-1980年代の間
	体重等	体重10kg 頭胴長70cm程度 尾長7-11cm
	生息環境	陸域: 森林
	生活史	昼夜を問わず、行動と休息を繰り返す。ほとんど単独で行動する。犬の吠え声のような大きな警戒声を発する。
繁殖	繁殖場所	森林
	時期	年間を通して出産が行われるが、5-10月が中心。
	繁殖形態	1産1子。生後半年前後の妊娠と、生後1年-1年2か月程度の初出産が可能。
	食性	植食性(木の葉や果実、草)
	生態系への影響	在来植物の採食。ニホンジカとの競合。
人への被害	農林水産業への被害	農作物被害
	生活被害	現在のところ、なし
	生命身体への被害	現在のところ、なし
	生態系又は人に対する影響度	A
緊急防除の	緊急度ランク	A
	緊急度の情報	生息数・分布が増加拡大しており、効果的な生息抑制が望まれる。
対策	予防対策	飼育管理の強化・外来種問題の普及啓発
	すでに定着している場合の対策	実態調査・捕獲駆除・食害の技術的防除
文献	全般	日本生態学会(2002)、鈴木(2005)
	千葉県	千葉県生物学会(1999)、浅田ほか(2000)、房総のシカ調査会(2001、2002、2007)
	写真・標本の有無(保管先)	剥製・骨格標本(千葉県立中央博物館)、写真(大木淳一)
	備考	勝浦市にあった観光施設が移入源と考えられる。

千葉県の外來種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No. Aランク:5

分類		哺乳類
和名		ハクビシン
学名		<i>Paguma larvata</i>
分類群		食肉目ジャコウネコ科
土着生息地(原産地)		中国南東部、台湾、東南アジアなど
生息情報	日本での分布状況	本州以南
	千葉県での分布状況	ほぼ全域
	千葉県での生息状況	生息数・分布が増加拡大中。
移入経路	日本	毛皮用養殖個体の放逐・逸出
	千葉県	茨城県から分布拡大した可能性が高い。
移入年代	日本	太平洋戦争終戦前後ころ
	千葉県	1980年代(県内では1987年に死体が初記録)。
体重等		体重3~5kg 頭胴長48~60cm 尾長38~43cm
生息環境		陸域:森林、農村地域、住宅地など
生活史		夜行性。木登りが得意で樹上をよく利用する。
繁殖	繁殖場所	樹洞、人家(屋根裏)
	時期	春~秋
	繁殖形態	2~4頭の子を出産
食性		雑食性(昆虫類、陸生貝類、小型の脊椎動物、果実など)
生態系への影響		在来生物の捕食、在来の中型雑食獣との競合
人への被害	農林水産業への被害	農作物被害(果実を好む。安房郡のミカン、ピワ、夷隅郡のナシなどに被害)
	生活被害	天井裏の糞尿被害・騒音
	生命身体への被害	現在のところ、なし
生態系又は人に対する影響度		A
緊急防除の	緊急度ランク	A
	緊急度の情報	全県的に生息し、果樹等の食害が増大している。地域的に生息を抑制するなどの対策が望まれる。
対策	予防対策	飼育管理の強化・外来種問題の普及啓発
	すでに定着している場合の対策	実態調査・捕獲駆除・食害の技術的防除
文献	全般	日本生態学会(2002)、鈴木(2005)
	千葉県	落合(1998)、千葉県生物学会(1999)、落合・浅田(2002)
写真・標本の有無(保管先)		剥製・骨格標本(千葉県立中央博物館)、写真(大木淳一・田辺浩明)
備考		顔の中央の白線が目立つ。

千葉県の外来種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No.		Aランク: 6
分類		爬虫類
和名		カミツキガメ
学名		<i>Chelydra serpentina</i>
分類群		カメ目カミツキガメ科
土着生息地(原産地)		カナダ南部からアメリカ合衆国、中部アメリカを経てエクアドル
生息情報	日本での分布状況	日本では1970年頃にはペットとして流通し、日本各地の野外から放逐もしくは逃出したとみられる個体が発見されるようになり社会問題のひとつとして注目されるようになった。また、印旛沼以外では神奈川県大磯丘陵でまとまった数が捕獲されたほか、2003年には武蔵野市の保育園(産経新聞03.11.7)、2004年には都内の公園で孵化個体が確認(佐藤 私信)された。
	千葉県での分布状況	印旛沼周辺では1978年9月に高崎川で捕獲された記録(NHKニュース)が最も古く、鹿島川からも1986年に報告されている(産経新聞1986.6.12)。また、1990年代中頃からは、印旛沼の定置網で混獲されるようになった(千葉日報1998.9.12)。佐倉市の自然環境調査によれば1998年から1999年にかけて35個体が鹿島川、および高崎川で捕獲もしくは確認された(小林他 2000)。
	千葉県での生息状況	2002年には印旛沼周辺において野外での繁殖(産卵、孵化、交尾行動)が確認された(小林未発表)。
移入経路	日本	ペットの放逐・逸出
	千葉県	ペットの放逐・逸出
移入年代	日本	1970年代?
	千葉県	1978年の報告が最も古い記録
体重等		甲長45cm以上、体重30kg以上
生息環境		淡水域
生活史		極めて長寿命で飢餓耐性が強いので、一旦定着すると影響が長期化する恐れが高い。産卵数が多く、原産地におけるアライグマのような捕食者が存在しない場合には、個体群の増殖率が原産地よりも高くなる可能性がある。
繁殖	繁殖場所	生息地の河川堤防や周囲の水田畔で産卵が確認されている。
	時期	6月
	繁殖形態	卵生、メス1個体が1回の産卵で20～50個の卵を産む。
食性		基本的に水生動物を捕食する肉食性であるが、胃の内容物から水生植物が確認されることもある。
生態系への影響		在来水生生物への捕食圧
人への被害	農林水産業への被害	農作業中に咬傷被害が発生する可能性がある。
	生活被害	不明
	生命身体への被害	水辺で咬傷被害を受ける可能性がある。
生態系又は人に対する影響度		A
緊急度の防除	緊急度ランク	A
	緊急度の情報	定着個体群の総個体数および分布範囲が限られているうちに駆除を実施することが必要。時期が遅くなればなるほど、駆除は困難になる。
対策	予防対策	飼育個体の遺棄防止の普及啓発
	すでに定着している場合の対策	野生化した集団の生態に関する基礎的研究と、駆除方法の検討を目指した試験的駆除の実施
文献	全般	日本生態学会(2002)
	千葉県	
写真・標本の有無(保管先)		有り(東邦大学・千葉県立中央博物館)
備考		

千葉県外来種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No. Aランク:7

分類		爬虫類
和名		ミシシippiaカミミガメ
学名		<i>Trachemys scripta elegans</i>
分類群		カメ目ヌマガメ科
土着生息地(原産地)		北アメリカ東部
生息情報	日本での分布状況	沖縄から北海道まで全国に定着
	千葉県での分布状況	都市近郊の河川や調節池
	千葉県での生息状況	定着し、繁殖していることはほぼ確実であるが、詳細な研究による実証はまだ行われていない。
移入経路	日本	ペットの放逐・逸出
	千葉県	ペットの放逐・逸出
移入年代	日本	
	千葉県	不明
体重等		雄、甲長20cm 雌、甲長28cm
生息環境		淡水域
生活史		オスよりもメスの方が大型になり、メスは背甲長が28cm、体重2.5kgに達する。
繁殖	繁殖場所	生息地の池や沼、河川周辺の地面に穴を掘って産卵する。
	時期	6～7月
	繁殖形態	繁殖能力が高く、1回に20個以上の卵を年に数回産卵する。
食性		雑食性
生態系への影響		雑食性で、水草の他、魚類、両生類、甲殻類、貝類、水生昆虫などを広く摂食する、在来種のカメ類とは、食物や日光浴場所、産卵場所、越冬場所が類似し、競合する
人への被害	農林水産業への被害	不明
	生活被害	不明
	生命身体への被害	成長した大型個体に噛みつかれた場合、咬傷被害が発生する恐れが大きい。
生態系又は人に対する影響度		AまたはB,時にC
緊急度の防除	緊急度ランク	B
	緊急度の情報	生息範囲の把握と駆除方法の確立が先決。
対策	予防対策	飼育用の販売を禁止する
	すでに定着している場合の対策	野生化した集団の生態に関する基礎的研究と、駆除方法の検討を目指した試験的駆除の実施
文献	全般	日本生態学会(2002)
	千葉県	
写真・標本の有無(保管先)		有り(東邦大学・千葉県立中央博物館)
備考		

千葉県の外来種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No. Aランク: 8

分類		両生類
和名		アフリカツメガエル
学名		<i>Xenopus laevis</i>
分類群		無尾目ヒキバ科
土着生息地(原産地)		アフリカ大陸南部
生息情報	日本での分布状況	関東地方で確認されているが、定着については不明。
	千葉県での分布状況	利根川・印旛沼水系で記録有り(大利根博物館)
	千葉県での生息状況	利根川下流域では1998年頃から本種の記録が報告されるようになった。複数の個体が複数年に渡って捕獲されていることから、定着している可能性がある。繁殖しているかどうかは不明。
移入経路	日本	実験動物として輸入されたものが逸出
	千葉県	不明
移入年代	日本	1954年から実験動物として輸入されている。野外への逸出年代は不明。
	千葉県	1990年代
体重等		体長 50~130mm
生息環境		淡水域
生活史		変態後もほとんど水中で生活し、河川、湖沼から塩性湿地まで、あらゆる水域に生息している
繁殖	繁殖場所	河川、湖沼から塩性湿地
	時期	不明
	繁殖形態	卵生
食性		在来のカエル類など水生生物を好んで捕食する性質を示す(飼育下での実験データ)。
生態系への影響		皮膚に寄生するツボカビが在来種の病原微生物として猛威をふるおそれが指摘されている。
人への被害	農林水産業への被害	不明
	生活被害	不明
	生命身体への被害	不明
生態系又は人に対する影響度		A
緊急度の防除	緊急度ランク	A
	緊急度の情報	繁殖力が高く、定着個体が長生きすることから、発見されしだい駆除を実施すべき。
対策	予防対策	効果的な捕獲方法の検索・開発による駆除、野外放逐の禁止
	すでに定着している場合の対策	野生化した集団の生態に関する基礎的研究と、駆除方法の検討を旨とした試験的駆除の実施
文献	全般	日本生態学会(2002)
	千葉県	小林・長谷川(2005b)
写真・標本の有無(保管先)		なし
備考		養殖業者が野外に放逐しようとして現場で差し止められた事件あり(千葉県立中央博物館、尾崎主任研究員のメモがある)。野外での越冬が可能なほど耐寒性を備えている(千葉大学構内の池での越冬記録あり)。

千葉県外来種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No. Aランク: 9

分類		両生類
和名		ウシガエル
学名		<i>Rana (Aquarana) catesbeiana</i>
分類群		無尾目アカガエル科
土着生息地(原産地)		北アメリカのロッキー山脈以東
生息情報	日本での分布状況	北海道、本州、四国、九州、小笠原諸島、南西諸島
	千葉県での分布状況	全域
	千葉県での生息状況	県内ほぼ全域の池、ため池、湖沼、流のゆるい河川に生息している。
移入経路	日本	食用として導入
	千葉県	農家の副業として養殖を奨励するため、国家事業として日本各地に配布された。
移入年代	日本	1918年に日本に導入された。
	千葉県	昭和の初期
体重等		体長110～185mm
生息環境		淡水域: 沼、用水路、河川
生活史		6月以降に産卵されたものはオタマジャクシで越冬し、翌年の6月に変態。秋に変態するオタマジャクシは体長が7cm、幼カエルが3.3cm、春に変態するものはオタマジャクシ11～12cm、幼カエルが4.5cm。10月下旬～11月上旬に冬眠に入る。
繁殖	繁殖場所	湖沼、池、河川の下流など、広い水面を持ち、かつ水深のある静水域
	時期	5月～9月
	繁殖形態	卵は一週間で孵化してオタマジャクシとなる。普通はそのまま越冬し、翌年の5～10月にかけて変態し、体長40mmの幼カエルになる。
食性		オタマジャクシ期は植物を中心とした雑食。変態後は動物食に変わる。
生態系への影響		日本で最大のカエルであり、極めて捕食性が強く、口に入る大きさであれば、ほとんどの動物が餌となる。昆虫の他、小型の哺乳類や鳥類、爬虫類、他のカエル類を含む両生類、魚類までも捕食の被害を受ける。
人への被害	農林水産業への被害	不明
	生活被害	住宅地周辺の沼地で騒音被害の届けが出されることがある。
	生命身体への被害	不明
生態系又は人に対する影響度		A
緊急度の防除	緊急度ランク	B
	緊急度の情報	個体群制御の手段として、商業的な利用を促進させる。
対策	予防対策	野生個体を実験材料、科学的研究の材料として利用し、制御につなげる。
	すでに定着している場合の対策	野生化した集団の生態に関する基礎的研究と、駆除方法の検討を旨とした試験的駆除の実施
文献	全般	日本生態学会(2002)
	千葉県	
写真・標本の有無(保管先)		有り(千葉県立中央博物館)
備考		国内外来種

千葉県の外来種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No.		Aランク : 10
分類		両生類
和名		トノサマガエル
学名		<i>Rana (Pelophylax) nigromaculata</i>
分類群		無尾目アマガエル科
土着生息地(原産地)		本州、四国、九州
生息情報	日本での分布状況	北海道にも移入され、定着している。
	千葉県での分布状況	一箇所のみで生息が確認されている。
	千葉県での生息状況	谷津干潟のビジターセンター内の池に定着
移入経路	日本	国内移入種
	千葉県	不明
移入年代	日本	国内移入種
	千葉県	1990年代
体重等		体長40～90mm
生息環境		淡水域
生活史		主に水田と用水路に生息する
繁殖	繁殖場所	水田、池
	時期	4～6月
	繁殖形態	
食性		昆虫類に加え、小型の両生類も補食する
生態系への影響		在来水生生物の捕食
人への被害	農林水産業への被害	不明
	生活被害	不明
	生命身体への被害	不明
生態系又は人に対する影響度		情報不足
緊急度の防除	緊急度ランク	A
	緊急度の情報	小規模な集団であるので、早急に駆除を実現するべきである。
対策	予防対策	現在定着している地域からの根絶
	すでに定着している場合の対策	野生化した集団の生態に関する基礎的研究と、駆除方法の検討を旨とした試験的駆除の実施
文献	全般	
	千葉県	
写真・標本の有無(保管先)		有り(千葉県立中央博物館)
備考		国内外来種

千葉県の外来種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No.		Aランク:11
分類		魚類
和名		オオクチバス
学名		<i>Micropterus salmoides</i>
分類群		スズキ目サンフィッシュ科
土着生息地(原産地)		北米大陸南東部
生息情報	日本での分布状況	全国の河川緩流域、湖沼、ダム湖、溜池など
	千葉県での分布状況	県内全域の主に湖沼・一部の河川 養老川、小櫃川、湊川、夷隅川、栗山川、手賀沼、印旛沼、与田浦、利根川、小糸川、江戸川、長尾川、丸山川、一宮川、南白亀川、手練川
	千葉県での生息状況	溜池など孤立した止水域や河川緩流域などに広く生息している。
移入経路	日本	神奈川県芦ノ湖への釣目的の放流が初。その後複数回の移植放流の可能性はある。
	千葉県	不明であるが、釣り対象魚としての放流が主と推測される。
移入年代	日本	1925年
	千葉県	1965年頃に手賀沼で記録 1983年に印旛沼で記録
体重等		全長50cm
生息環境		淡水域。汽水域の可能性もあり。止水域や河川緩流域を好む。
生活史		春から秋は止水域や緩流域の浅所に生息。初夏にオスが営巣し、繁殖。冬季に深場に移り、集団で越冬。寿命は10数年～20年。稚魚期まではオスが保護するが、5cm位で単独生活に入る。メスは4～5年、オスは3～4年で成熟する。
繁殖	繁殖場所	湖沼等の止水域・緩流域の岸辺の水深1.5mくらいまでの砂底や砂礫底
	時期	5月上旬～7月上旬
	繁殖形態	オスが岸辺の水深1.5m位までの水底に、掃鉢状の巣を作り、メスを次々に誘って産卵させ、孵化後体長5cmになるまで保護する。
食性		体長5cmくらいまでは動物プランクトン、その後魚食性が強まり、多くの魚類を中心にさまざまな動物を食べる。
生態系への影響		魚類を中心に、様々な動物を捕食することから、生物組成に与える影響が強いといわれ、特に溜池や小規模水域においてこの影響は強いと考えられている。
人への被害	農林水産業への被害	強度の捕食による在来の漁業対象種の減少があるとされる。
	生活被害	なし
	生命身体への被害	なし
生態系又は人に対する影響度		AまたはB,時にC
緊急度の防除	緊急度ランク	AまたはB
	緊急度の情報	在来魚種や多くの水生生物への捕食圧による漁業資源減少や生態系悪化のため緊急に防除が必要とされる。
対策	予防対策	特定外来生物への指定。県条例で移植放流禁止
	すでに定着している場合の対策	なし
文献	全般	環境省(2004)、川那部・水野(1989)、中坊(1993)、日本生態学会(2002)、丸山ほか(1987)
	千葉県	千葉県生物学会(1999)、千葉県史料研究財団(2002)、永野・梶山(2000)、梶山(1996a)田中・新島(2000)
写真・標本の有無(保管先)		
備考		本種と同様の問題があるとされるブルーギルと一緒にいる場合、両種の競合関係があるのではないかとの指摘あり。

千葉県の外來種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No.	Aランク: 12	
	分類	魚類
	和名	タイリクバラタナゴ
	学名	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i>
	分類群	コイ目コイ科
	土着生息地(原産地)	アジア大陸東部、台湾
生息情報	日本での分布状況	日本全国
	千葉県での分布状況	南部の一部を除き県内各地 記録: 印旛沼、手賀沼、利根川、栗山川、一宮川、夷隅川、与田浦、南白亀川、手繰川
	千葉県での生息状況	河川改修、圃場整備などに伴う水域環境の変化により、本種およびイシガイ科二枚貝類の生息可能な環境が減少、本種も急激に減少中である。
移入経路	日本	ハクレンやソウギョの移入に伴い入ったと推測されている。
	千葉県	ハクレンやソウギョの移入に伴い入ったり、それが拡大したと推測されている。
移入年代	日本	1940年代
	千葉県	1940年代、あるいはそれ以降
	体重等	全長8cm
	生息環境	平野部の池沼、細流、溜池、小河川、灌漑用水路など
	生活史	流れの弱い場所や止水域などで生息。寿命は1~2年。
繁殖	繁殖場所	流れの弱い場所や止水域などで、産卵床となるイシガイ科二枚貝類が生息する場所
	時期	地域によって4月~10月
	繁殖形態	イシガイ科二枚貝類の鰓葉内に産卵、卵は貝の鰓葉内で孵化。発生し、稚魚として浮出。単独生活を始める。
	食性	稚魚期は動物プランクトン食、その後附着藻類を中心とした植物食
	生態系への影響	同一種内の別亜種であるニッポンバラタナゴとの交雑が報告されている。また、千葉県ではミヤコタナゴとの競争関係による駆逐が知られている。
人への被害	農林水産業への被害	なし
	生活被害	なし
	生命身体への被害	なし
	生態系又は人に対する影響度	条件によりA~D
緊急度の	緊急度ランク	条件によりA~C
	緊急度の情報	比較的規模の大きい水系ではタイリクバラタナゴとミヤコタナゴが共存しているが、ミヤコタナゴが生息する止水域あるいは緩流域などに侵入した場合には短期間でタイリクバラタナゴに置き換わった例が知られている。
対策	予防対策	啓蒙による移動や飼育個体の放流の防止
	すでに定着している場合の対策	ミヤコタナゴ生息域での駆除の試みがなされた例がある。
文献	全般	日本生態学会(2002)、環境省野生生物保護対策検討会移入種問題分科会(移入種検討会)(2002)、川那部・水野(1989)、中坊(2000)、奥田ほか(1996)
	千葉県	千葉県生物学会(1999)、千葉県史料研究財団(2002)、千葉県内水面水産研究センター(2004)、田中・新島(2000)
	写真・標本の有無(保管先)	
	備考	

千葉県の外來種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No. Aランク: 13

分類	魚類	
和名	ブルーギル	
学名	<i>Lepomis macrochirus</i>	
分類群	スズキ目サンフィッシュ科	
土着生息地(原産地)	カナダセントローレンス川水系と五大湖以南、ミシシッピー川を中心とする北米大陸中央平原	
生息情報	日本での分布状況	北海道函館周辺以南、ほぼ全国
	千葉県での分布状況	県内のほぼ全域の河川、湖沼、溜池など
	千葉県での生息状況	釣り目的の放流と考えられ、大河川や湖沼から、孤立した溜池や部分的にしか生息可能箇所のない小河川などまで、広く生息している。 記録: 養老川、小櫃川、湊川、夷隅川、栗山川、手賀沼、印旛沼、与田浦、利根川、小糸川、江戸川、一宮川、南白亀川
移入経路	日本	アメリカから記念に寄贈 ミシシッピー川の採集個体を伊豆半島の一碧湖に放流
	千葉県	主に釣り目的の放流?
移入年代	日本	1960年
	千葉県	1960年
体重等	全長20cm	
生息環境	湖沼などの止水域、河川中・下流域の流れの穏やかな場所、小河川の溜りなどで、水草のある場所を好む。	
生活史	流れの緩やかな場所か止水域で、通常は水底近くで索餌行動をとっていることが多い。水草帯を好み、隙間のある人工護岸や魚礁などにもよく集まる。全長25mmくらいまでは水草帯の中で群れ行動をとっているが、その後は自由行動に移行する。	
繁殖	繁殖場所	岸近くの浅所の砂泥底や砂礫底
	時期	主に6月～7月
	繁殖形態	オスが水底に挿鉢状の産卵床をつくり、メスを呼び入れ産卵させ、仔魚期まで保護する。巢は近接して多数作られ、コロニー状になる。
食性	昆虫類、植物、エビ類、魚類、動物プランクトンなど幅広い雑食性	
生態系への影響	本種の捕食により在来魚などに大きな影響を与えるとされているが、県内の例で見ると場所の条件で影響の出方が異なるようである。より詳細な調査が必要であろう	
人への被害	農林水産業への被害	捕食による在来種への影響が指摘されている。また、網漁具への入網による作業効率の低下なども考えられる。
	生活被害	なし
	生命身体への被害	なし
生態系又は人に対する影響度	AまたはB, 時にC (情報不足)	
緊急防除度の	緊急度ランク	AまたはB, 時にC (情報不足)
	緊急度の情報	影響について水域ごとの調査が必用
対策	予防対策	県条例で移植放流禁止
	すでに定着している場合の対策	
文献	全般	環境省編(2004)、川那部・水野(1989)、中坊(1993)、日本生態学会(2002)、丸山ほか(1987)
	千葉県	千葉県生物学会(1999)、千葉県史料研究財団(2002)、尾崎真澄(1996a)
写真・標本の有無(保管先)		
備考		

千葉県の外来種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No. Aランク: 14

分類		昆虫類
和名		セイヨウオオマルハナバチ
学名		<i>Bombus terrestris</i>
分類群		ハチ目ミツバチ科
土着生息地(原産地)		ヨーロッパ
生息情報	日本での分布状況	1996年秋に北海道日高地方門別町で自然巢が発見。2001年には静岡県で記録。
	千葉県での分布状況	下総台地、房総丘陵
	千葉県での生息状況	営巣は確認されていない。
移入経路	日本	温室トマトの受粉昆虫として1992年頃からベルギーやオランダから輸入されている。
	千葉県	
移入年代	日本	
	千葉県	
体重等		
生息環境		陸域
生活史		
繁殖	繁殖場所	土中で営巣して大きなコロニーを作る。新女王が越冬施設野菜(トマト)
	時期	
	繁殖形態	
食性		植物の花粉や蜜など
生態系への影響		植生などへの影響、在来近縁種と競合・駆逐の可能性、交雑による遺伝的攪乱。北海道日高地方では広範な野生植物・栽培植物を利用し、盗蜜を高頻度で行う。
人への被害	農林水産業への被害	なし
	生活被害	なし
	生命身体への被害	
生態系又は人に対する影響度		A
緊防除の	緊急度ランク	A
	緊急度の情報	現状では千葉県では定着が確認されていないが、影響が大きいため、野外で確認された場合はすぐに排除するとともに、逸出防止策を取り続けるべき。
対策	予防対策	逸出防除ネットの展張、使用済み巣箱の適正処理の普及を図る。
	すでに定着している場合の対策	
文献	全般	日本生態学会(2002)、鷲谷ほか(1997)
	千葉県	須田(1999)、信太(2000)
写真・標本の有無(保管先)		写真: http://bluelist.hokkaido-ies.go.jp/
備考		

千葉県の外来種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No. Aランク: 15

	分類	軟体動物
	和名	アサリ
	学名	<i>Ruditapes philippinarum</i>
	分類群	マルスダレガイ目/マルスダレガイ科
	土着生息地(原産地)	有明海/黄海
生息情報	日本での分布状況	土着群は北海道・およそ本州から九州。移入と考えられる群は東京湾等
	千葉県での分布状況	東京湾
	千葉県での生息状況	確実な繁殖は報告されていないが、繁殖の可能性が高い。
移入経路	日本	潮干狩り用アサリ
	千葉県	潮干狩り用アサリ
移入年代	日本	
	千葉県	平成時代
	体重等	殻長3 cm程度
	生息環境	海域: 潮間帯から上部浅海帯の砂/砂泥底
	生活史	プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する。
繁殖	繁殖場所	受精は水中で、定着場所は成体と同じ
	時期	主に春と秋に産卵
	繁殖形態	体外受精(放卵放精)
	食性	懸濁物食
	生態系への影響	在来のアサリとの交雑の可能性等
人への被害	農林水産業への被害	混入による在地個体群の価格の低下等
	生活被害	不明
	生命身体への被害	なし?
	生態系又は人に対する影響度	B
緊急防除の	緊急度ランク	A
	緊急度の情報	外来個体群が増加すると、水産上在来のブランドが下がる可能性が高い。
対策	予防対策	移入アサリのチェック; 食用移入の遺棄禁止; 養殖・蓄養の制限
	すでに定着している場合の対策	特になし; [産地表示の明確化]
文献	全般	
	千葉県	
	写真・標本の有無(保管先)	(標本: 千葉県立中央博物館)
	備考	国外及び国内外来種

千葉県の外來種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No. Aランク: 16

分類		軟体動物
和名		イスパニアマイマイ
学名		<i>Eobania vermiculata</i>
分類群		有肺目リンゴマイマイ科
土着生息地(原産地)		南ヨーロッパ
生息情報	日本での分布状況	千葉県
	千葉県での分布状況	浦安市
	千葉県での生息状況	浦安市内の2ヶ所で繁殖
移入経路	日本	植木に付着?
	千葉県	植木に付着?
移入年代	日本	平成時代
	千葉県	平成時代
体重等		殻径3 cm程度
生息環境		陸域: 開放地
生活史		受精後、産卵し、孵化後、幼貝から成貝に成長
繁殖	繁殖場所	成体と同じ
	時期	不明
	繁殖形態	体内受精(卵生/直達発生)
食性		生きた植物体や落葉等
生態系への影響		不明
人への被害	農林水産業への被害	農作物の食害の可能性
	生活被害	家庭菜園での食害の可能性
	生命身体への被害	広東住血線虫の中間宿主の可能性
生態系又は人に対する影響度		C
緊防除度の	緊急度ランク	A
	緊急度の情報	被害は出ていないが、生息地が限定されており、定着初期なので、根絶できる可能性もある。
対策	予防対策	苗木等の移動時のチェック
	すでに定着している場合の対策	薬剤散布や生息環境の改悪
文献	全般	上島ほか(2004)
	千葉県	上島ほか(2004)
写真・標本の有無(保管先)		標本: 千葉県立中央博物館
備考		

千葉県外来種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No. Aランク:17

分類		軟体動物
和名		カネツケシジミ
学名		<i>Corbicula fluminea form insularis</i>
分類群		マルスダレガイ目シジミ科
土着生息地(原産地)		東アジア
生息情報	日本での分布状況	およそ本州から九州・沖縄
	千葉県での分布状況	各地
	千葉県での生息状況	1990年代には多かったが、近年はやや減少傾向。
移入経路	日本	食用シジミの遺棄
	千葉県	食用シジミの遺棄
移入年代	日本	昭和時代(太平洋戦争以降)
	千葉県	平成時代
体重等		殻長2 cm程度
生息環境		淡水域:人里周辺の流れの弱い流水域や止水域
生活史		体内で稚貝となり、体外へ放出され、幼貝から成貝へ成長する。
繁殖	繁殖場所	受精は体内で、定着場所は成体と同じ
	時期	不明(冬季には行わない?)
	繁殖形態	体内受精(放精:雄性発生)
食性		懸濁物食
生態系への影響		在来のマシジミとの置き換わり
人への被害	農林水産業への被害	不明
	生活被害	不明
	生命身体への被害	なし?
生態系又は人に対する影響度		B
緊急防除の	緊急度ランク	A
	緊急度の情報	着実に分布を広げており、在来種のマシジミを駆逐する可能性がある。
対策	予防対策	移入シジミのチェック;食用移入の遺棄禁止;養殖・蓄養の制限
	すでに定着している場合の対策	特になし;[産地表示の明確化]
文献	全般	諸喜田(1984)、増田ほか(1998)、日本生態学会(2002)
	千葉県	黒住ほか(2004)
写真・標本の有無(保管先)		標本:千葉県立中央博物館
備考		

千葉県の外來種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No. Aランク: 18

	分類	軟体動物
	和名	カワヒバリガイ
	学名	<i>Limnoperna fortunei</i>
	分類群	イガイ目イガイ科
	土着生息地(原産地)	中国
生息情報	日本での分布状況	およそ本州から九州(琵琶湖・長良川・群馬等)
	千葉県での分布状況	常陸利根川
	千葉県での生息状況	2006年度に初めて確認された。今後、個体数増加・分散の可能性が高い。
移入経路	日本	食用シジミ/真珠養殖母貝の輸入
	千葉県	定着地からの幼生分散
移入年代	日本	平成時代
	千葉県	平成時代
	体重等	殻長2 cm程度
	生息環境	淡水域: 流水域や止水域
	生活史	プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する。
繁殖	繁殖場所	受精は水中で、定着場所は成体と同じ
	時期	不明(夏中心?)
	繁殖形態	体外受精(放卵受精)
	食性	懸濁物食
	生態系への影響	不明(微細空間の創出)
人への被害	農林水産業への被害	不明
	生活被害	導水管等への付着による効率悪化
	生命身体への被害	なし?
	生態系又は人に対する影響度	B
緊防除の	緊急度ランク	A
	緊急度の情報	日本各地で確認され始め、駆除は困難であり、早めに対策をとるべきである。
対策	予防対策	最侵入に対しては移入シジミのチェック
	すでに定着している場合の対策	繁殖期前の大規模な見つけ採り
文献	全般	松田・上西(1992)、中井・松田(2000)、日本生態学会(2002)
	千葉県	
	写真・標本の有無(保管先)	標本: 千葉県立中央博物館
	備考	

千葉県の外來種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No. Aランク: 19

分類	軟体動物	
和名	ゴマフダマ	
学名	<i>Natica tigrina</i>	
分類群	吸腔目タマガイ科	
土着生息地(原産地)	有明海/黄海	
生息情報	日本での分布状況	東京湾等
	千葉県での分布状況	小櫃川河口干潟
	千葉県での生息状況	現在までのところ定着は確認できていないが、今後定着の可能性は高い。
移入経路	日本	
	千葉県	潮干狩り用アサリに混入
移入年代	日本	
	千葉県	平成時代
体重等	殻高2.5 cm程度	
生息環境	海域: 潮間帯から上部浅海帯の砂/砂泥底	
生活史	プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する。	
繁殖	繁殖場所	成体と同じ
	時期	不明(冬季には行わない?)
	繁殖形態	体内受精(卵囊[砂茶碗]形成)
食性	二枚貝等の貝類	
生態系への影響	貝類を捕食	
人への被害	農林水産業への被害	有用二枚貝類の捕食
	生活被害	不明
	生命身体への被害	なし?
生態系又は人に対する影響度	A	
緊急度の防除	緊急度ランク	A
	緊急度の情報	未だ野外での繁殖は確認されていないが、個体が増加すると影響がでそうなので、早めの対策が必要。
対策	予防対策	移入アサリのチェック
	すでに定着している場合の対策	特になし; [産地表示の明確化]
文献	全般	
	千葉県	黒住・岡本(1996)
写真・標本の有無(保管先)	標本: 千葉県立中央博物館	
備考	野外逸脱的、国内外来種	

千葉県の外來種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No. Aランク: 20

分類	軟体動物	
和名	サキグロタマツメタ	
学名	<i>Euspira fortunei</i>	
分類群	吸腔目タマガイ科	
土着生息地(原産地)	有明海/黄海	
生息情報	日本での分布状況	東京湾等
	千葉県での分布状況	小櫃川河口干潟
	千葉県での生息状況	着実に個体数が増加している。
移入経路	日本	
	千葉県	潮干狩り用アサリ
移入年代	日本	
	千葉県	平成時代
体重等	殻高5 cm程度	
生息環境	海域: 潮間帯から上部浅海帯の砂/砂泥底	
生活史	プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する。	
繁殖	繁殖場所	成体と同じ
	時期	不明(冬季には行わない?)
	繁殖形態	体内受精(卵囊[砂茶碗]形成)
食性	二枚貝等の貝類	
生態系への影響	貝類を捕食	
人への被害	農林水産業への被害	有用二枚貝類の捕食
	生活被害	不明
	生命身体への被害	なし?
生態系又は人に対する影響度		A
緊防除度の	緊急度ランク	B
	緊急度の情報	有用貝類への捕食が認められるが、個体数が増加しており、駆除等は困難。
対策	予防対策	移入アサリのチェック
	すでに定着している場合の対策	一部、見つけ採り; [産地表示の明確化]
文献	全般	酒井(2000)、大越(2003)
	千葉県	
写真・標本の有無(保管先)		標本: 千葉県立中央博物館; 写真: 水産研究センター富津研究所
備考		国内外来種

千葉県外来種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No. Aランク: 21

分類		軟体動物
和名		シジミ属の一種
学名		<i>Corbicula sp. cf. largillierti</i>
分類群		マルスダレガイ目シジミ科
土着生息地(原産地)		東アジア
生息情報	日本での分布状況	千葉県
	千葉県での分布状況	県北西部
	千葉県での生息状況	多少不確実であるが、台湾シジミとは異なるものが市原市等で確認されている。
移入経路	日本	食用シジミの遺棄
	千葉県	食用シジミの遺棄
移入年代	日本	平成時代
	千葉県	平成時代
体重等		殻長2.5 cm程度
生息環境		淡水域: 人里周辺の流れの弱い流水域や止水域
生活史		幼貝から成貝へ成長する。
繁殖	繁殖場所	受精は体内で、定着場所は成体と同じ
	時期	不明(冬季には行わない?)
	繁殖形態	体内受精(放精)
食性		懸濁物食
生態系への影響		在来種のマシジミとの置き換わりの可能性
人への被害	農林水産業への被害	不明
	生活被害	不明
	生命身体への被害	なし?
生態系又は人に対する影響度		C
緊防除の緊急度の情報	緊急度ランク	A
	緊急度の情報	着実に分布を広げており、在来種のマシジミを駆逐する可能性がある。まだ定着地は少ないようである。
対策	予防対策	移入シジミのチェック; 食用移入の遺棄禁止; 養殖・蓄養の制限
	すでに定着している場合の対策	特になし; [産地表示の明確化]
文献	全般	根本ほか(2003)
	千葉県	
写真・標本の有無(保管先)		標本: 千葉県立中央博物館
備考		

千葉県の外來種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No. Aランク : 22

	分類	軟体動物
	和名	シナハマグリ
	学名	<i>Meretrix petechialis</i>
	分類群	マルスダレガイ目マルスダレガイ科
	土着生息地(原産地)	朝鮮半島南岸・中国
生息情報	日本での分布状況	およそ本州から九州
	千葉県での分布状況	東京湾
	千葉県での生息状況	東京湾で確認されるが、未定着と思われる。
移入経路	日本	潮干狩り用アサリ/養殖
	千葉県	潮干狩り用アサリ/養殖
移入年代	日本	昭和時代(太平洋戦争以降)
	千葉県	平成時代
	体重等	殻長8 cm程度
	生息環境	海域: 潮間帯から上部浅海帯の砂/砂泥底
	生活史	プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する。
繁殖	繁殖場所	受精は水中で、定着場所は成体と同じ
	時期	不明(冬季には行わない?)
	繁殖形態	体外受精(放卵放精)
	食性	懸濁物食
	生態系への影響	不明
人への被害	農林水産業への被害	不明
	生活被害	不明
	生命身体への被害	なし?
	生態系又は人に対する影響度	C
緊防除度の	緊急度ランク	A
	緊急度の情報	定着する可能性は低いが、逆に定着等が認められれば、初期の根絶等が可能かもしれない。
対策	予防対策	移入ハマグリ・アサリのチェック; 食用移入の遺棄禁止; 養殖・蓄養の制限
	すでに定着している場合の対策	特になし; [産地表示の明確化]
文献	全般	日本生態学会(2002)
	千葉県	岡本・黒住(1996)
	写真・標本の有無(保管先)	標本: 千葉県立中央博物館
	備考	

千葉県の外來種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No. Aランク：23

分類	軟体動物	
和名	スクミリンゴガイ	
学名	<i>Pomacea canaliculata</i>	
分類群	原始紐舌目タニシモドキ(リンゴガイ)科	
土着生息地(原産地)	アルゼンチン	
生息情報	日本での分布状況	およそ本州から九州・沖縄
	千葉県での分布状況	主に九十九里平野
	千葉県での生息状況	東総地方から南に分布を拡大しており、各地で高密度。
移入経路	日本	養殖個体の逃亡
	千葉県	養殖個体の逃亡
移入年代	日本	昭和時代(太平洋戦争以降)
	千葉県	昭和時代(太平洋戦争以降)
体重等	殻長6 cm程度	
生息環境	淡水域：水田等の止水域や緩やかな流れの流水域	
生活史	卵から幼貝で孵化し、成貝に成長する。	
繁殖	繁殖場所	成体と同じ
	時期	冬季以外
	繁殖形態	体内受精(卵生/付着卵産卵/直達発生)
食性	生植物を含む植物体	
生態系への影響	植物の食害	
人への被害	農林水産業への被害	水田作物の食害
	生活被害	不明(大量死亡時の水質悪化等?)
	生命身体への被害	広東住血線虫の中間宿主
生態系又は人に対する影響度		A
緊防除の	緊急度ランク	A
	緊急度の情報	現実的な農業被害が出ているので、早急な対策が必要。ただ全国でも根絶等はできていない。
対策	予防対策	植物防衛法の遵守；国内移動の制限
	すでに定着している場合の対策	取水口からの侵入防止/捕殺・厳寒期のロータリー耕・登録薬剤による防除/水位調節
文献	全般	宮崎(1985)、日本生態学会(2002)
	千葉県	入村・細川(1993)
写真・標本の有無(保管先)		標本：千葉県立中央博物館；写真(病害虫防除所)
備考		

千葉県の外来種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No. Aランク：24

	分類	軟体動物
	和名	タイワンシジミ
	学名	<i>Corbicula fluminea</i>
	分類群	マルスダレガイ目シジミ科
	土着生息地(原産地)	東アジア
生息情報	日本での分布状況	およそ本州から九州・沖縄
	千葉県での分布状況	主に県北部
	千葉県での生息状況	着実に増加している。
移入経路	日本	食用シジミの遺棄
	千葉県	食用シジミの遺棄
移入年代	日本	昭和時代(太平洋戦争以降)
	千葉県	平成時代
	体重等	殻長2 cm程度
	生息環境	淡水域：人里周辺の流れの弱い流水域や止水域
	生活史	体内で稚貝となり、体外へ放出され、幼貝から成貝へ成長する。
繁殖	繁殖場所	受精は体内で、定着場所は成体と同じ
	時期	不明(冬季には行わない?)
	繁殖形態	体内受精(放精：雄性発生)
	食性	懸濁物食
	生態系への影響	在来のマシジミとの置き換わり
人への被害	農林水産業への被害	マシジミ選別の手間増加(マシジミとの競合等の可能性)
	生活被害	不明
	生命身体への被害	なし?
	生態系又は人に対する影響度	B
緊急度の防除	緊急度ランク	A
	緊急度の情報	着実に分布を広げており、在来種のマシジミを駆逐する可能性がある。
対策	予防対策	移入シジミのチェック；食用移入の遺棄禁止；養殖・蓄養の制限
	すでに定着している場合の対策	特になし；[産地表示の明確化]
文献	全般	増田ほか(1998)、日本生態学会(2002)
	千葉県	新島・田中(2000)、千葉県史料研究財団(2002)
	写真・標本の有無(保管先)	標本：千葉県立中央博物館 写真・標本：千葉県水産総合研究センター内水面水産研究所
	備考	

千葉県外来種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No. Aランク: 25

分類	軟体動物	
和名	ムラサキイガイ	
学名	<i>Mytilus galloprovincialis</i>	
分類群	イガイ目イガイ科	
土着生息地(原産地)	地中海	
生息情報	日本での分布状況	北海道・およそ本州から九州・沖縄・小笠原
	千葉県での分布状況	各地
	千葉県での生息状況	各地で普通に生息している。
移入経路	日本	船底付着
	千葉県	船底付着
移入年代	日本	昭和時代(太平洋戦争以前)
	千葉県	昭和時代(太平洋戦争以前)
体重等	殻長6 cm程度	
生息環境	海域: 潮間帯から上部浅海帯の基質に足糸で付着	
生活史	プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する。	
繁殖	繁殖場所	受精は水中で、定着場所は成体と同じ
	時期	産卵は春から秋
	繁殖形態	体外受精(放卵受精)
食性	懸濁物食	
生態系への影響	不明(在来種の定着場所被覆・海水の濾過)	
人への被害	農林水産業への被害	船底や養殖施設を含めた漁業関係資材への付着が認められる。
	生活被害	発電所の取・排水管への付着による効率悪化
	生命身体への被害	なし?
生態系又は人に対する影響度	A	
緊急度の	緊急度ランク	B
	緊急度の情報	IUCNワースト100; 個体数も多く、プランクトン幼生を出すので、駆除等が難しい。足糸で付着するので、他生物等への影響大?
対策	予防対策	バラストタンク水の「殺菌」や付着生物のチェック; 塗料等による付着面への定着阻害
	すでに定着している場合の対策	塗料等による付着面への定着阻害と人力による除去
文献	全般	金丸(1935)、梶原(1985)、日本生態学会(2002)
	千葉県	朝倉(1992)
写真・標本の有無(保管先)	標本: 千葉県立中央博物館	
備考		

千葉県の外來種整理表(生態系又は人に対する影響度または防除の緊急度ランクがAのもの)

No. Aランク : 26

分類	線虫類	
和名	マツノザイセンチュウ	
学名	<i>Bursaphelenchus xylophilus</i>	
分類群	ハリセンチュウ目アフェレンコイデス科	
土着生息地(原産地)	北アメリカ	
生息情報	日本での分布状況	北海道、青森県を除く全都府県
	千葉県での分布状況	全域
	千葉県での生息状況	全域
移入経路	日本	造船用輸入木材に寄生して侵入
	千葉県	枯損木の移動
移入年代	日本	1905年長崎県
	千葉県	1948年(君津市)
体重等	♀成虫体長0.7~1mm ♂成虫体長0.6~0.8mm	
生息環境	陸域	
生活史	マツノマダラカミキリによって媒介され、マツの木部に寄生し、全身的な衰弱、枯損を起こす。	
繁殖	繁殖場所	マツ木部
	時期	通年
	繁殖形態	卵生
食性	草食	
生態系への影響		
人への被害	農林水産業への被害	防風林のマツ枯損による被害が大きい
	生活被害	防風林等保全林の被害
	生命身体への被害	
生態系又は人に対する影響度	A	
緊急度の防除	緊急度ランク	A
	緊急度の情報	
対策	予防対策	薬剤防除 抵抗性マツ系統の導入
	すでに定着している場合の対策	薬剤防除
文献	全般	岸(1988)、全国森林病虫獣害防除協会(1997)
	千葉県	千葉県史料研究財団(2002)
写真・標本の有無(保管先)		
備考		